

公益第 3 期

事業計画書

自 28 年 (2016 年) 10 月 1 日
至 29 年 (2017 年) 9 月 30 日

宮城県石巻市中央二丁目 8-2

公益社団法人 みらいサポート石巻
代表理事 大丸 英 則

<要旨>

東日本大震災直後に最大被災地とも呼ばれる石巻市で設立し、公益認定を受けた団体として、「つなぐ 未来の石巻へ」をミッションとして公益事業を発展させる。

震災から5年半を経て、これまで被災者支援、支援団体等への連携機会提供、語り部等の記録・震災伝承、石巻市の地域づくり事業等に取り組んできた実績を踏まえ、住民主体の震災伝承や地域づくりサポートを、公益目的事業「防災・地域づくり事業」として推進する。

特に、今期は石巻市において、震災伝承検討会議、震災遺構検討会議が設置され、行政・NPO・専門機関が連携して震災伝承体制を構築する機運が高まっており、「震災支援の連携から震災伝承の連携へ」活動を注力してゆく。南浜津波復興祈念公園の設置が予定されている南浜地区の追悼・伝承スペースにおいて、防災専門機関との協働事業による専門性を高め、住民主体の震災伝承活動を展開する。

収益事業としては、東日本大震災を伝えるためのICT活用アプリや地域活性化のモデルを、行政や関係機関からの業務委託を受けて各地に普及する。

また、公益社団法人として、4年後に設置予定の南浜津波復興祈念公園や震災遺構におけるより良い市民伝承活動につなげられるよう、法人運営体制を改善する。

1 公益目的事業

公益目的事業として、「防災・地域づくり事業」を実施する。「伝承・交流」（語り部）などの体験プログラムの提供、震災展示・交流スペースの運営、「安全・安心のまちづくり」（被災市街地の行政・関係団体と連携した防災促進、地域住民の災害対応力強化）、「地域づくりサポート」（住民主体での被災の実情と教訓が後世に伝承される体制構築）、「宮城県における防災教育」、「被災者支援の連携推進」の5区分の事業に取り組む。

団体発足から7期目、公益法人として3期目を迎え、「被災者の支援」、「災害の防止」、「地域社会の健全な発展」、「教育を通じた健全な人間性の涵養」等の公益目的を改めて法人内で共有し、公益社団法人としての体制を整えながら「防災・地域づくり事業」を推進する。

また、WEBサイト、Facebook等による公益事業の情報発信や、人的基盤・財政基盤の強化に取り組む。

2 収益事業

アプリやドローンによる空撮、映像編集等、ICTを活用して、協働事業提案を受けた各地でコンテンツ制作を行う。

3 管理部門

公益社団法人として、将来の祈念公園での活動継続を見据え、適正な体制にて法人を運営する。

<各事業の計画>

公益目的事業Ⅰ： 防災・地域づくり事業

1 伝承・交流

主に関連する定款条項：第4条（2）（災害の防止）、および（5）（教育）

事業期間：平成28年（2016年）10月～平成29年（2017年）9月（継続）

対象：年間5,000名のプログラム体験者、10,000名の震災伝承スペース来訪等

事業概要（「語り部」などの体験プログラムの提供、および震災伝承スペースの運営）

東日本大震災の体験を伝える「語り部」、被災地の「現在・過去・未来」がわかる「石巻津波伝承AR」アプリを活用した「防災まちあるき」や、学生向け特別プログラム「語り部さんと歩く 3.11」、被災地外からの交流プログラム受け入れなど、来訪者のニーズに合致した防災啓発・震災伝承プログラムを提供することで、教育旅行等の団体受け入れ増に向けた取り組みを実施する。

また、平成32年（2020年）、に石巻市南浜津波復興祈念公園が設置され、旧門脇小学校、大川小学校旧校舎が震災遺構として整備予定であるが、祈念公園や遺構の整備には時間を要することが見込まれるため、石巻市中央地区、南浜地区で運営する震災展示スペースを継続運営・発展させ、不特定の来訪者に向けた災害記録の発信や防災意識の涵養の機会を提供する。

特に、本年度は、石巻市が震災伝承／遺構検討会議、震災伝承遺構会議、や石巻南浜津波復興祈念公園「参加型維持管理運営」検討協議会を設け、震災から5年半を経て震災を伝える取り組みが本格化しつつあることから、地域団体と共に、将来の伝承活動継続に向けた被災資料の記録、調査、被災体験等の聞き取り、協働体制づくり等を強化する。

更に、「語り部証言 17題 3.11のこと」他、東日本大震災を伝える書籍・DVD等を、石巻市への訪問視察者ほか、震災記録に関心のある石巻市への訪問視察者等へ直接頒布するほか、石巻市における震災体験やNPOによる災害対応等について、行政・防災関連組織や被災地外からの要望に応じて講演・発表等を行い、震災伝承・防災教育に努める。

受益機会の公開

「語り部」等の体験プログラムに関してはWEBサイトに概要および申込用紙を公開し、誰でも申し込める機会を提供している他、震災伝承スペースは週5日開館し、誰でも無料来館可能な形で公開する。

事業の質を確保するための方策

東北大学災害科学国際研究所助教、名古屋大学減災連携研究センター准教授、公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構（人と防災未来センター）研究者、公益社団法人中越防災安全推進機構（長岡震災アーカイブセンターきおくみらい）担当者等、防災研究機関との共同研究の実施や、過去の被災地での防災・伝承事業のノウハウを踏まえた専門的アドバイスを受けながら、事業を推進する。

期待される効果

- ・ 「語り部」、「防災まちあるき」、学生向け「語り部さんと歩く 3.11」等の防災プログラムの 5,000 名への体験提供
- ・ 災害記録発信や防災意識涵養のための震災伝承・交流スペースへの来館者 10,000 名
- ・ 震災体験を伝える冊子「語り部証言 17 題 3.11 のこと」等の販売 300 冊
- ・ 石巻の災害対応や NPO の貢献等の発表等による防災教育の機会提供 5 回以上 等

財源：物販収益、民間委託費、助成金および寄付金

主な資金の使途

業務担当人件費、伝承スペース減価償却費、消耗品費、語り部への謝金等

2 安全・安心のまちづくり

主に関連する定款条項：第 4 条（1）（被害者の支援）、（2）（災害の防止）、（4）（地域社会の発展）および（5）（教育）

事業期間：平成 28 年（2016 年）10 月～平成 29 年（2017 年）9 月（継続）

対象：中心市街地住民、アプリダウンロード者 1,000 名など

事業概要（被災市街地の行政・関係団体と連携した防災促進、地域住民の災害対応力強化）

石巻市危機対策課、コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会と連携し、ICT を活用した防災促進と賑わい創出、地域住民の災害対応力強化等に取り組む。石巻市総合防災訓練への地域参画促進、近隣小学校との地域防災連絡会、事業主の防災取り組み補助など、津波により大きな被害を受けた石巻圏における防災の取り組みを推進する。

受益機会の公開

事業内容を WEB サイトに公開するほか、「石巻津波伝承 AR」アプリはスマートフォン・タブレット端末の所有者は誰でもダウンロードできるよう無償公開する。また、石巻市防災訓練など、全市民に呼びかけが行われる機会に防災・減災意識を涵養する取り組みを行う。

事業の質を確保するための方策

東北大学災害科学国際研究所助教等、防災研究機関による専門的なアドバイスを受け、防災標識の設置等を予定している石巻市と地域住民との連携を促しながら事業を推進する。

期待される効果

- ・ 防災教育に資する「石巻津波伝承 AR」アプリの総ダウンロード数 8,500 件
- ・ 地域住民との石巻市防災訓練への参画 1 回 など

財源：民間業務委託費、寄付金等

主な資金の使途

業務担当人件費、旅費交通費、印刷製本費等

3 地域づくりサポート

主に関連する定款条項：第 4 条（1）（被害者の支援）、および（4）（地域社会の発展）

事業期間：平成 28 年（2016 年）10 月～平成 29 年（2017 年）9 月（継続）

対象：震災伝承関連団体を通じた石巻市民

事業概要（市民主体での被災の実情と教訓が後世に伝承される体制構築）

石巻市の復興プロジェクト「市民主体での被災の実情と教訓が後世に伝承される体制構築」を支援するため、行政からの復興支援員制度にもとづく受託等により、以下の地域づくりサポートを継続する。

1 市民が支える震災伝承・防災

- (1) 復興祈念公園計画検討協議会や地域団体等の調整
- (2) 人材の育成と市民団体の連携構築
- (3) 地域子ども達への震災伝承
- (4) 質の高い震災伝承プログラム構築
- (5) 失われた街の記憶や教訓、地域の支え合い等の、地域住民の参画による再構

受益機会の公開

WEB サイトにより事業内容を公開するほか、震災を伝える活動の担い手が加盟制限なく参加できるネットワーク組織と協力し、より多くの受益者へサポートを継続できるよう努める。

事業の質を確保するための方策

東日本大震災の他地域での先例参照、研修の参加、防災専門機関との協働などにより、地域の主体性を促す取り組みについて多方面から学びながら事業を推進する

期待される効果

- ・ 震災伝承関連団体や地元町内会等との調整、震災伝承リーフレットの制作
- ・ 震災伝承拠点の運営や震災伝承プログラムの開催、ビジターズ産業ネットワーク震災伝承部会(震災学習体制づくりコンファレンス)開催による市民団体の協働体制構築
- ・ 語り部等の主体的な参画による、祈念公園における継続的な活用を見据えた質の高い伝承プログラムの構築
- ・ 震災により失われた街の暮らしや記憶、避難時の教訓・地域の支え合い等を、地域住民の参画を得て後世への伝承を見据えた形で再構築

財源：行政からの業務委託費、寄付金等

主な資金の使途

業務担当人件費、役員報酬、賃借料、地代家賃等

4 宮城県の防災教育

事業概要

宮城県石巻市の小中学校に対する防災教育を実施し、宮城県他地区においても展開する。

事業の質を確保するための方策

防災教育については、防災専門機関として宮城県の社会福祉協議会の支援実績を持つ国立研究開発法人防災科学技術研究所から専門的なアドバイスを受けながら学校における防災教育事業を推進する。

財源：民間からの業務委託費、寄付金等

主な資金の使途

業務担当人件費、旅費交通費、通信運搬費等

5 被災者支援の連携推進

事業概要

宮城県における被災者支援に関わる活動主体（自治体、復興支援員、NPO、自治体等）の連携を促進し、石巻市における連絡会の実績を活かして NPO のコミュニティ支援等の活動環境を整備するほか、熊本地震・台風 10 号による大規模災害など、緊急支援を必要とする被災者支援の体制構築に貢献する。

事業の質を確保するための方策

支援団体が支援方針を共有するための連絡会を運営してきた実績を活かし、石巻市および宮城県の行政、他市町の間支援組織等と連携しながら、効果的な支援体制構築に貢献する。

財源：民間助成金、寄付金等

主な資金の使途

業務担当人件費、旅費交通費、通信運搬費等

収益事業Ⅰ：IT事業

1 IT事業

事業期間：平成26年（2014年）11月～平成27年（2015年）3月（予定）

対象：共同事業提案のある地域

事業概要（ICTを活用したコンテンツ制作）

アプリやドローンによる空撮、映像編集等、ICTを活用して、協働事業提案を受けた各地でコンテンツ制作を行う。

期待される効果

- ・ 震災を伝えるアプリのモデル性の伝達、普及
- ・ 東日本大震災の伝承による防災意識の涵養と連携地域との交流促進

財源：行政、民間委託費

再委託：「石巻津波伝承AR」アプリ業者への開発委託

主な資金の使途

派遣時の旅費交通費、消耗品費、燃料費等

管理

1 法人運営

昨年7月1日に公益社団法人として認定された経緯を踏まえ、公益法人として、法令および公益認定等ガイドラインに沿った運営体制を構築する。

年4回予定の通常理事会において、事業計画、事業予算、各規約案の修正、承認を行う他、定時総会において、事業報告・決算承認を承認する。また、税額控除資格を取得し、東日本大震災後に少人数で発足したため、正会員数を増加させ法人としてのガバナンスを強化する。

財源：会費、寄付金

主な資金の使途

役員報酬、官報掲載広報費、会計士支払報酬等